

令和三年度 京都府公立高等学校入学者選抜  
**中期選抜学力検査**

**検査 1**

**国語**

**解答上の注意**

- 1 「始め」の指示があるまで、問題を見てはいけません。
- 2 問題は、この冊子の中の1～4ページにあります。
- 3 答案用紙には、**受付番号**を記入しなさい。氏名を書いてはいけません。
- 4 答案用紙の答の欄に答えを記入しなさい。採点欄に記入してはいけません。
- 5 答えを記入するときは、それぞれの問題に示してある【答の番号】と、答案用紙の【答の番号】とが一致するように注意しなさい。
- 6 答えを記号で選ぶときは、答案用紙の答の欄の当てはまる記号を○で囲みなさい。答えを訂正するときは、もとの○をきれいに消すか、それに×をつけなさい。
- 7 答えを記述するときは、丁寧に書きなさい。
- 8 字数制限がある場合は、句読点や符号なども一字に数えなさい。
- 9 答えの書き方について、次の解答例を見て間違いのないようにしなさい。

**解答例**

一 火曜日の翌日は何曜日か、漢字一字で書け。……………答の番号【1】

二 次の問い(1)・(2)に答えよ。

(1) 北と反対の方角として最も適当なもの  
 を、次の(ア)～(ウ)から一つ選べ。

……………答の番号【2】  
 (ア) 東 (イ) 西 (ウ) 南

(2) 奇数を、次の(ア)～(オ)からすべて  
 選べ。……………答の番号【3】

(ア) 1 (イ) 2 (ウ) 3  
 (エ) 4 (オ) 5

二		一	問題番号
(2)	(1)		答の番号
【3】	【2】	【1】	答の欄
ア イ ウ エ オ	ア イ ウ	水 曜日	
【3】	【2】	【1】	採点欄

検査					
1					
受付番号					
1	2	3	4	5	6
得点					

次の文章は、「古今著聞集」の一節である。注を参考にしてこれを読み、問い(1)～(5)に答えよ。(12点)

延喜の聖主、醍醐寺を御建立の時、道風朝臣に額書き進らすべきよし仰せられて、額二枚をたまはせけり。一枚は南大門、一枚は西門の料なり。真草、両様に書きて奉るべきよし、勅定ありければ、仰せにしたがひて両様に書きて進らせたりにけるを、真に書きたるは南大門の料なるべきを、草の字の額を、晴れの門にうたれたりけり。道風これを見て、あはれ賢王やとぞ申しける。そのゆゑは、草の額ことに書きすましておぼえけるが、敬慮に叶ひて、かく日比の儀あらたまりてうたれける、誠にかしこき御はからひなるべし。それをほめ申すなるべし。

〔新潮日本古典集成〕による

注

- \*延喜の聖主：醍醐天皇。
- \*道風朝臣：小野道風。平安中期の書家。
- \*よし：というようなこと。
- \*真草：真は楷書、草は草書を意味し、それぞれの書体を示す。
- \*進らせたりにける：献上した。
- \*書きすましておぼえける：立派に書けたと思っていた。
- \*敬：天皇の行動や考えに敬意を表す語。
- \*儀：作法。
- \*醍醐寺：京都市伏見区にある寺。
- \*書き進らす：書いてさしあげる。
- \*料：掲げるための物品。
- \*ことに：特に。
- \*かく…このように。

- (1) 本文中の 両様に書きて奉るべき の解釈として最も適当なものを、次の(ア)～(エ)から一つ選べ。……………答の番号【1】
- (ア) それぞれの書体で二枚ずつ書いたものを、差し出すように
- (イ) それぞれの書体で一枚ずつ書いたものを、差し出すように
- (ウ) どちらかの書体で書いた二枚を、差し出すように
- (エ) どちらかの書体で書いた二枚のうち、良い方を差し出すように
- (2) 本文中の二重傍線部( )で示されたもののうち、主語が一つだけ他と異なるものがある。その異なるものを、次の(ア)～(エ)から選べ。……………答の番号【2】
- (ア) したがひて (イ) 書きたる (ウ) うたれける (エ) ほめ申す

(3) 本文中の そのゆゑは 御はからひ は歴史的仮名遣いで書かれている。これらの平仮名の部分をすべて現代仮名遣いに直して、それぞれ平仮名で書け。……………答の番号【3】

(4) 本文中には、道風の発言が一箇所あり、それを示すかき括弧「」が抜けている。その発言の部分の、初めと終わりの二字をそれぞれ抜き出して書け。……………答の番号【4】

(5) 次の会話文は、実月さんと大貴さんが本文を学習した後、本文について話したものの一部である。これを読み、後の問い①・②に答えよ。

実月 醍醐天皇によって醍醐寺が建てられた頃、道風は優れた書家として有名だったんだよ。

大貴 そうだったね。その道風は、醍醐天皇のどのような行為を評価したんだったかな。

実月 道風は、A に、B を掲げた行為を評価したことが本文からわかるね。

大貴 そうだね。醍醐天皇の行為は C であったと道風は考えていたんだね。

① 会話文中の A・B に入る最も適当な表現を、本文中からそれぞれ A は三字で、B は五字で抜き出して書け。……………答の番号【5】

② 会話文中の C に入る最も適当な表現を、次の(ア)～(エ)から一つ選べ。……………答の番号【6】

- (ア) 書の専門家の判断を優先したものであり、醍醐天皇自身の思いとは異なっていたが、慣例を一新させたもの
- (イ) 古くからの通例を変えたものであり、その判断は醍醐天皇自身の考えとは違っていたが、多くの者の賛同を得られるもの
- (ウ) 道風の意見と同じであっただけでなく、長く続いてきた風習にも醍醐天皇自身の感覚にも従ったもの
- (エ) 慣習にこだわらず醍醐天皇自身の感性にそったものであっただけでなく、その感性は書き手と同じもの

二 次の文章を読み、問い(1)～(11)に答えよ。(28点)

(1)～(12)は、各段落の番号を示したものである。

1 対話とは、何かの問いに答えようとして、あるいは、自分の考えが正しいのかどうかを知ろうとして、誰かと話し合い、真理を探究する会話のことである。ただ情報を検索すれば得られる単純な事実ではなく、きちんと検討しなければ得られない真理を得たいときに、人は対話をする。それは、自分を変えようとしている人が取り組むコミュニケーションである。

2 ショッピングや仕事でのやり取りは、自分の要望と相手の要望をすり合わせようとする交渉である。友人や恋人との会話は、よい関係を保ち、相手を理解し、互いに話を楽しもうとする交流である。これらの会話は有意義かもしれないが、真理の追求を目的としてはいいない。対話は、何かの真理を得ようとして互いに意見や思考を検討し合うことである。

3 私たちは日常生活の中で、ほとんど対話する機会がないのではないだろうか。それは、真理の追求が日常生活で行われなくなっているからである。実は、対話をしなければならぬ場面は、日常生活の中にも、思ったよりもたくさんあるのだ。

4 仕事場でも、ただ当面の与えられた業務をこなすだけではなく、仕事全体の方向性や意味が問われる場合、たとえば、「良い製品とは何か」「今はどういう時代で、どのような価値を消費者は求めているのか」「環境問題に対して、我が社は何かをすべきか」など真剣に論じるべきテーマは少なくないだろう。家庭でも、子どもの教育をめぐる、そもそも子どもにとっての良い人生とはなにか、そのために何を学んでほしいのか、親と子どもとはどういう関係なのか、子離れするとはどういうことか、これらのことについて家族で話し合う必要はないだろうか。地域でも、どのような地域を目指せばいいのか、住人はどのような価値を重んじているのか、以前からの住人と新しく来た人たちはどう交流すればよいか。本当はこうしたことについて膝を突き合わせて対話する必要があるのではないだろうか。

5 人生に関すること、家族と社会に関すること、政治に関すること、地域での生活のこと、私たちはこれらのことをほとんど対話することなく、日々を過ごしてしまっている。そうした難しい議論は頭のいい人たちに任せて、自分たちはせつせと働き、自分個人の生活だけを楽しめばいいのだ。かつてはこう考える人もいた。しかし、そうした態度はすでに限界を迎えている。私たちは、公共の問題にも無関心でいられないし、自分個人のあり方についても、いろいろな人から意見を聞いて考え直してみたいと思っ

6 対話は面倒なことなのかもしれない。人の考えはそれぞれが異なっており、とりわけ、話を通じないと感じている相手と話し合うことは、ひどくストレスフルである。

7 そこで、筆者が思い出すのは、もう三〇年近く前、ベルギーに留学したときの経験である。ルーヴァン大学のある教授による比較哲学のセミナーは、毎週のよう

にヨーロッパ各地からゲストスピーカーを招いて、コウ演をしてみたい、そのあとに十分なディスカッションの時間を取るというスタイルのものだった。

8 ある週は、たしか、スペインの若手研究者によってアリストテレスについての発表があり、その後に質疑応答となった。筆者が驚いたのは、その質疑応答である。古代ギリシャの古典研究の発表であるのに、ある質問者は現代哲学のジャック・デリダの主張を持ち出し、「これに対してアリストテレスならどう答えるのか」と質問した。ある南米からの留学生は、「アリストテレスの哲学は、南米の先住民の国々を侵略したときの擁護論として用いられたが、あなたはこれについてどう弁護するのか」と質問した。ナイジェリアからの留学生は、「アリストテレスの存在論は自分たちの民族で信じられている神の存在論と著しく異なるが、どちらが正しいと思うか」と問うた。日本では考えられない質問たちである。こうした質疑が毎回のよう

9 発表者たちは、日本ならば苦笑してやり過ぎそうな質問に対しても真摯に答えようとしていた。この質疑応答に見られるのは、同じ土俵に上げることが不可能に思えるような、まったく文脈の違う、まったく枠組みの違う考えであつても、あえて対峙させようとする姿勢である。哲学のテーマは人類に共通するテーマであり、そこに参加する者は、あらゆる違いを携えて(乗り越えてではない)、対話すべきだという態度である。それは、どのような参加者も迎え入れようとする、誰に対しても応答しようとする態度である。

10 とはいえ、やはり発表者たちはそれほどうまく返答できなかったように記憶している。しかし彼らの発表は、それまででは想像できないほど、空間的にも時間的にも広大な枠組みに投げられ、きわめて異質な意見に出会い、生産的な揺さぶりをかけられたのである。

11 \*うかつにも当然視された文脈や慣習から見ればまるで異質であり、一見すると無関係とも言えるような、非常に異なった考え方の人たちが、まったく予想もつかない角度と発想から、突然に議論に参加してくる。その議論は、足元を掬うやっかいな質問に満ちており、唐突な意見が混乱に拍車をかけ、ひとつの問題をまとめ終わらないうちに、さらにお門違いと言いたくなるような主張がなされ、それまでの話の流れが揺り動かされる。まったくの混沌である。しかしこの混沌

のなかでこそ、それでも皆で真理を追求しようとする態度のなかでこそ、素晴らしい創造性が生まれるのである。おそらくベルギーという多言語の国家では、こうした議論の重要性がよく理解されている。

現代社会は、すべての人がそれぞれに真剣に取り組まなければならない共通の課題に直面している。そこで私たちが最初にしなければいけないのは、こうした対話である。混沌たる状態のなかでも、皆で問題を共有して真理を追求する対話である。真理に直面しようとする人々、現実を見つめない人々は、かならず衰退して行く。かりに議論の場で共通の結論を得られなくても、互いが思考を深めて、自分なりの意見を持ち帰って、それまでの自分のあり方を変えることができる。今の時代に求められているのは、粘り強い思考を伴った、異質な人々同士の対話ではないだろうか。

(河野哲也)「人は語り続けるとき、考えていない」による……一部省略がある

注

- \* 類かぶり…知っているながら知らないふりをする事。
- \* ストレスフル…ストレスを強く感じるさま。
- \* ゲストスピーカー…招待されて話をする人。
- \* アリストテレス…古代ギリシャの哲学者。
- \* 存在論…存在することの意味や根拠を探究する学問。
- \* 存在論…存在することの意味や根拠を探究する学問。
- \* どうか?…事情にうとく不注意なさま。
- \* 足元を鞠う…相手を失敗させること。
- \* お間違いない…見当違い。
- \* 混沌…物事の区別がはっきりしないこと。
- \* セミナー…研究会。
- \* スタイル…形式。
- \* 対峙…向き合うこと。

(1) 次の文は、本文中の 1・2 段落の内容をまとめたものである。 X・Y に入る表現の組み合わせとして最も適当なものを、後の (ア)〜(エ) から一つ選べ。……………答の番号 7

会話の中には、互いの希望をまとめたり、相互に理解しようとしたりする X と、物事の真実について、互いに深く吟味する Y がある。

- (ア) X 交渉・交流 Y 対話 (イ) X 検索・検討 Y 対話  
 (ウ) X 交渉・対話 Y 追求 (エ) X 対話・交流 Y 交渉

(2) 本文中の [ ] には、 [ ] の前に述べられていることと、後に述べられていることとの間で、どのような働きをする語が入るか。最も適当なものを、下段の I 群 (ア)〜(エ) から一つ選べ。また、本文中の [ ] に入る語として最も適当なものを、下段の II 群 (カ)〜(ケ) から一つ選べ。……………答の番号 8

I 群 (ア) 後に述べられていることが、前に述べられていることの具体例であることを表す働き。

(イ) 後に述べられていることが、前に述べられていることとは別の話題であることを表す働き。

(ウ) 後に述べられていることが、前に述べられていることとは逆の内容であることを表す働き。

(エ) 後に述べられていることが、前に述べられていることの言い換えやまとめであることを表す働き。

II 群 (カ) だが (キ) つまり (ク) では (ケ) たとえば

(3) 本文中の a ないと同じ品詞の b ない が用いられているものを、次の (ア)〜(ウ) から一つ選べ。……………答の番号 9

- (ア) 不確かな憶測にすぎない。(イ) 明日の天気かわからない。  
 (ウ) 予想もしない結果になった。(エ) 忘れ物は何もないはずだ。

(4) 本文中の 膝を突き合わせて の意味として最も適当なものを、次の I 群 (ア)〜(エ) から一つ選べ。また、本文中の 真摯に の意味として最も適当なものを、後の II 群 (カ)〜(ケ) から一つ選べ。……………答の番号 10

- I 群 (ア) 急いでその場に近づき (イ) 時間をかけて丁寧に  
 (ウ) 同じ方向を向いて座り (エ) 近くで向き合ってじっくりと

- II 群 (カ) 攻撃的に (キ) まじめに  
 (ク) 自己中心的に (ケ) つぶさに

(5) 本文中の c そうした態度 について説明しているものとして最も適当なものを、次の (ア)〜(エ) から一つ選べ。……………答の番号 11

- (ア) 公共の問題に関心を持ち、自分個人のあり方を見つめ直すとする態度。  
 (イ) 社会が抱える困難なことや個人の生活を楽しむことに向き合わない態度。  
 (ウ) 難しい課題は人に任せ、自分は生活に必要なことしか取り組まない態度。  
 (エ) 自分より身のまわりにある社会的な問題を解決しようとする態度。

(6) 本文中の d もう三〇年近く前 は、どのような品詞の語で組み立てられているか、用いられている単語の品詞を、次の (ア)〜(オ) からすべて選べ。……………答の番号 12

- (ア) 動詞 (イ) 形容詞 (ウ) 連体詞 (エ) 副詞 (オ) 名詞  
 【裏へつづく】

(7) 本文中の「コウ演」の片仮名の部分を漢字に直し、楷書で書け。……………答の番号【13】

(8) 本文中の「筆者が驚いた」について、筆者が驚いたこととして最も適当なものを、次の(A)～(E)から一つ選べ。……………答の番号【14】

(ア) 質問者が自らの考えを踏まえて質問する場面が設定されており、同じ話題とは思えないような質問が発表者に投げかけられたこと。

(イ) 質問者は、それぞれ時代や国、民族などといった独自の視点で質問をし、発表者はどんな視点の質問であっても対応しようとしたこと。

(ウ) 日本では、質問する時間はあまり設けられていないが、ベルギーでは十分な質疑応答の時間が設けられていたこと。

(エ) 発表者が想定外の質問もすべて受け入れ、即座に発表内容と照合して応答したことで円滑に議論が発展したこと。

(9) 本文中の「著しく」の漢字の部分の読みを平仮名で書け。……………答の番号【15】

(10) 一郎さんと京子さんのクラスでは、本文を学習した後、本文の内容について意見文を書くことになった。次の会話文は、一郎さんと京子さんが話し合ったものの一部である。これを読み、後の問い①～④に答えよ。

一郎 一つの話題に対してそれぞれが考えを持っているから、学校で話し合いをする場面においても、容易に相手との意思の疎通が図れないことがあるよね。だから、本文には **A** と感じているとあったよ。

京子 うん。でも、このような日常生活における意思の疎通の難しさといった課題に限らず、現代社会で抱えている課題に対して必要なのは、**B** だと本文から読み取れるよ。

一郎 そうだね。なぜその **B** をする必要があるのかというと、**C** ことができるようになるからだ、本文を読むとわかるね。

京子 なるほど。じゃあ本文の内容について、意見文を書いてみよう。

① 会話文中の **A** に入る最も適当な表現を、本文中から八字で抜き出して書け。……………答の番号【16】

② 会話文中の **B** に入る最も適当な表現を、本文中から二十一字で抜き出し、初めと終わりの三文字を書け。……………答の番号【17】

③ 会話文中の **C** に入る最も適当な表現を、次の(A)～(E)から一つ選べ。……………答の番号【18】

(ア) これまで確立してきたものに動揺を与えることになるため、別の問題点が見つかり、新たな議論を広げる

(イ) 課題をその場にいる人と共有することになるため、時間をかけて議論を繰り返すし、結論を導き出す

(ウ) 今まで自分になかった発想や考えを知り、自らの思考を検討することになるため、自己を新たなものにする

(エ) 互いに自らの経験や考えを伝え合うことになるため、多くの人に自分自身のことを理解してもらう

④ 意見文 について説明した次の文章中の **X**・**Y** に入る最も適当な表現を、**X** は後のI群(A)～(E)から、**Y** はII群(カ)～(ケ)から、それぞれ一つずつ選べ。……………答の番号【19】

意見文は、まず自分の意見や主張を明確にし、文章中に **X** を書くことで説得力のある文章となる。さらに、**Y** を書くことで自分の意見や主張が深まり、明確なものとなって、説得力が増すことになる。

I群	(ア) その意見を支える根拠	(イ) その意見に対する他者の感想
(ウ)	意見が推移した過程	(エ) 客観的な視点を省いた推論
II群	(カ) 主観的な反論	(キ) 繰り返し同じ根拠
(ク)	反論を想定した考え	(ケ) 構成を意識した長い文章

(11) 本文の段落構成を説明した文として最も適当なものを、次の(A)～(E)から一つ選べ。……………答の番号【20】

(ア) **3** 段落では、**1**・**2** 段落の話題の提示を受けて、筆者の主張を再度問題提起している。

(イ) **5** 段落では、**4** 段落で述べた具体例を踏まえて、**3** 段落で述べた内容とは反対の内容を示している。

(ウ) **7**～**11** 段落では、**6** 段落で述べた話題に対する反論を、筆者自身の経験を踏まえて述べている。

(エ) **12** 段落では、**11** 段落までに述べた筆者の主張を踏まえ、本文全体をまとめていく。

【国語おわり】

# 検査1 国語答案用紙

二														一						問題番号	
(11)	(10)				(9)	(8)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	(5)		(4)	(3)	(2)	(1)		
	㊤	㊦	㊧	㊨										㊩	㊪						
【20】	【19】	【18】	【17】	【16】	【15】	【14】	【13】	【12】	【11】	【10】	【9】	【8】	【7】	【6】	【5】	【4】	【3】	【2】	【1】	番号の	
ア	I アイ ウ エ	ア	イ ウ エ	イ ウ エ		ア	イ ウ エ	ア イ ウ エ	ア イ ウ エ	I アイ ウ エ	ア	ア イ ウ エ	ア	ア イ ウ エ	A □ □ □ □ □ □ □ □ □	□ □ □ □ □ □ □ □ □	b □ □ □ □ □ □ □ □	ア イ ウ エ	ア イ ウ エ	答	
イ	II カ キ ク ケ	ウ	カ キ ク ケ	カ キ ク ケ	しく	ウ	カ キ ク ケ	ウ エ オ エ	ウ エ ク ケ	II カ キ ク ケ	ウ	ウ カ キ ク ケ	ウ	ウ カ キ ク ケ	B □ □ □ □ □ □ □ □ □	□ □ □ □ □ □ □ □ □	c 御 □ □ □ □ □ □ □	ウ エ エ	ウ エ エ	の	
ウ																				欄	
エ																				欄	
得点	【20】	【19】	【18】	【17】	【16】	【15】	【14】	【13】	【12】	【11】	【10】	【9】	【8】	【7】	【6】	【5】	【4】	【3】	【2】	【1】	採点欄

検 査
1
受 付 番 号
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <span>.....</span> <span>.....</span> <span>.....</span> <span>.....</span> </div>
得 点
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <span>.....</span> <span>.....</span> </div>

# 検査1 国語 正答表

二													一					問題番号			
(11)	(10)				(9)	(8)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	(5)		(4)	(3)		(2)	(1)	
	㉔	㉓	㉒	㉑										㉐	㉏						
【20】	【19】	【18】	【17】	【16】	【15】	【14】	【13】	【12】	【11】	【10】	【9】	【8】	【7】	【6】	【5】	【4】	【3】	【2】	【1】	答の番号	
	I ア			対話は面倒なこと	いちじるしく		講演			I イ		I ウ			A 南大門	あはく王や	b そのゆえは			答の欄	
	ク	ウ	粘り強くの対話					イ オ	ウ	イ キ		ウ カ		イ	B 草の字の額		c 御はからい	ウ	イ		
【20】	【19】	【18】	【17】	【16】	【16】	【14】	【13】	【12】	【11】	【10】	【9】	【8】	【7】	【6】	【5】	【4】	【3】	【2】	【1】	備考欄	
	完全解答							完全解答				完全解答			完全解答						配点
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	(各1) 2	2	2	2	2	2	2	(各1) 2	2	2	2	